

わが国における副首都の必要性

わが国の現状 ～東京一極集中と日本の存在感の低下～

わが国では、戦後の高度成長期から今日まで一貫して東京一極集中が進む。世界では、アジアを中心に新興国が台頭、日本の存在感は低下、政治・行政の面でも依然として、東京が中心・中央集権体制が強い。

国全体の成長をけん引する、国際競争力を持つ複数の拠点創出が必要

これまでの会議の意見（概要）

国家間競争ではなく都市間競争の時代
日本の国土を考えたとき、西の拠点として
大阪の中枢性の再構築が重要
東京以外の大都市を戦略拠点都市として
育成すべき
地方分権改革を前進させる起点となる
など

想定外の大災害にも対応しうる国土の強靱化が必要

これまでの会議の意見（概要）

首都代替機能、東京のバックアップが必要
東京から遠い大都市を「戦略拠点都市」
として育成すべき
バックアップ機能は毎日使っていないと使い
物にならない。
経営判断できる体制を複数持つ必要
など

副首都・大阪の意義

『大阪から日本を変える。大阪から世界へ発信する。』

東京を頂点とするピラミッド型の国土構造・社会構造・価値観を大きく転換し、わが国が抱える社会問題を解決する先導役を果たすため、**東京とは異なる個性・新たな価値観をもって、世界で存在感を発揮する「東西二極の一極」として**、平時にも非常時にも**日本の未来を支え、けん引する成長エンジン**の役割を果たす。

副首都・大阪の役割

(1) 「西日本の首都」(分都)として、中枢性・拠点性を高める。

大阪は都市インフラが東京に次いで集積する西日本随一の都市。関西圏として大きな経済規模、豊かな都市基盤、深い歴史、独自性の高い文化。西日本経済の中核都市、西日本のワンストップセンターとしての役割を広げることで、国全体の総合力と機動性（スピード感）を向上。国機関等拠点の移転や二重化、権限移譲などを進める地域主権、多極分散型社会の先導役。東京と並ぶわが国の成長エンジンとして経済中枢機能を高める。

(2) 「首都機能のバックアップ」(重都)として、平時を含めた代替機能を備える。

大阪はわが国第二の都市。関西圏でみれば首都圏に匹敵する厚みのあるストック。災害リスクの低減は、世界から信頼を得て、投資や交流の加速を図る上で重要。日本全体が機能不全に陥らないよう、常日頃からバックアップ体制の整備が不可欠。東京との同時被害の恐れが少ない大阪をバックアップ拠点として、平時にも、非常時にも日本を支える体制を整える。

(3) 「アジアの主要都市」として、東京とは異なる個性・新たな価値を発信する。

大阪は「アジアの中継都市」をめざし、輸出入や人の流れなどでアジアとのつながりを深めている。また、ライフサイエンスや新エネルギーなど自らが強みを持つ分野の集中的取り組み。イノベーションにおいてアジアの成長をけん引する拠点性は、日本の存在感向上にも寄与。大阪・関西圏が、東京とは異なる個性・新たな価値を創造・発信し、経済的な互恵関係を深め、アジアの主要都市としての地位確立により、わが国におけるアジアのゲートウェイの役割を果たす。

(4) 「民都」として、民の力を最大限に活かす都市を実現する。

大阪では、都市発展において民の力が大きな役割を果たしてきた。今日も特区制度や規制改革など新たな手法で民間活力を最大限発揮できる環境づくりを進める。わが国では、NPO・社会的企業・CSRなど新たな公共の担い手が生まれつつある。世界では、寄付や社会的投資等を通じた公益活動が重視される、新たな時代の潮流。官の発想を超える民間のダイナミズムを社会の中心に据え、「民」主役の社会づくりを大阪から発信。

(参考)

これからの検討の進め方～副首都に求められる機能～



タスクフォース（TF）について：関係府市職員等で構成。特別顧問から必要に応じて意見・助言をいただくとともに、検討分野の有識者に必要に応じて参画いただく。